

さくらだより

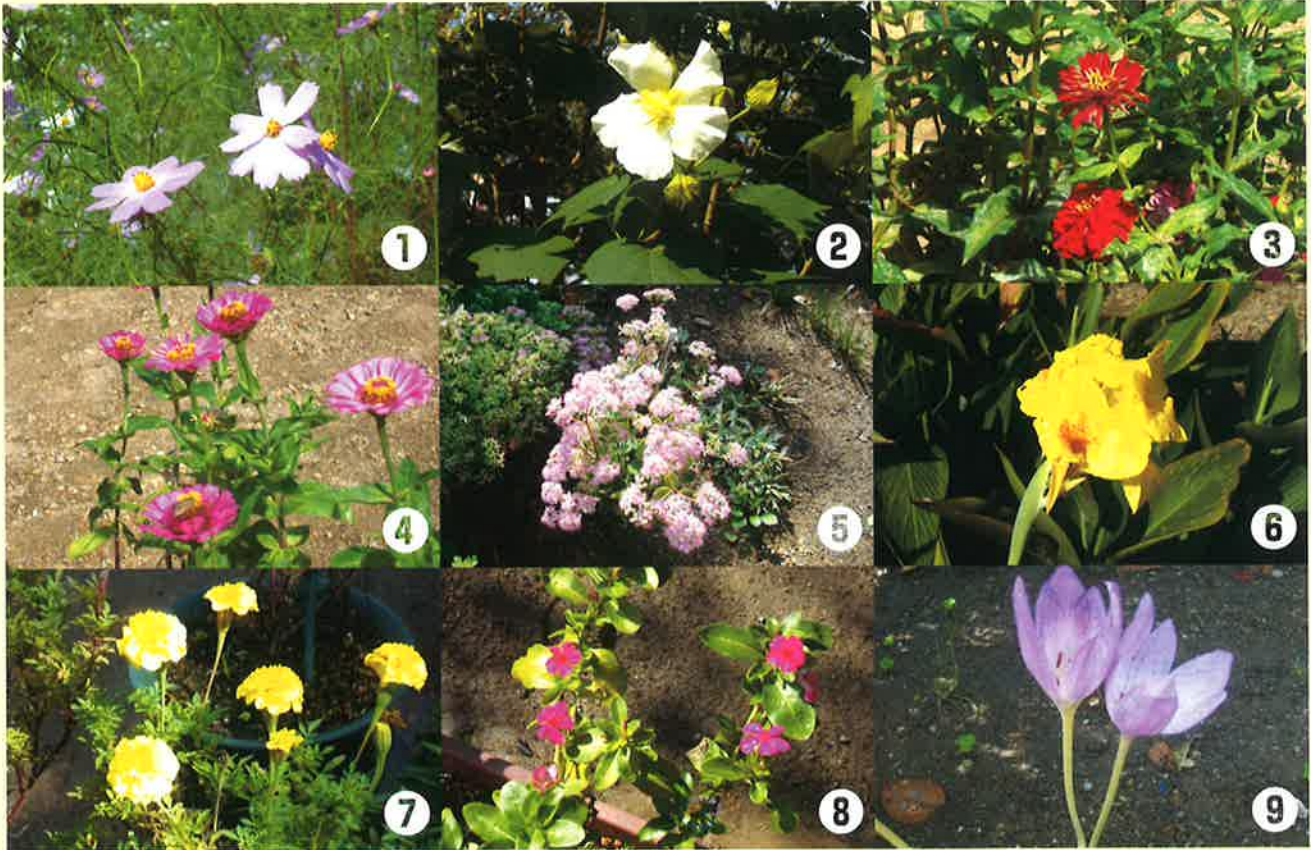
第10号

2008年11月1日

社会福祉法人京都老人福祉協会 京都市伏見区深草大亀谷東古御香町59番地・60番地 TEL.075-641-6622 FAX.075-641-6746

京都老人ホーム 憩いの場

養護に入所されている方々が育てたたくさんの花達です。
さて、この花の名前は何でしょうか？



こたえは8ページへ

ことば

一人ひとりの個性を力に変える

副理事長 三代 修

人事管理の分野で「ダイバーシティー」という言葉を時々聞くようになった。多様性という意味を持つアメリカ生まれの言葉で、特に最近では、社員の多様性のことを指して使われることが多い。人事管理の側面から、ダイバーシティーという場合、社員が持つ様々な違い（性別・国籍・年齢・学歴や職歴等）を受け入れ、様々な人が働きやすい環境を構築し、人の力を引き出し、組織全体の力を高めようという考え方や取り組みを指す。日本全体を見渡しても将来への労働力不足を女性や高齢者もつと働きやすくする事で補っていく必要がある事は目に見えている。

京都老人福祉協会は、現在職員四四七人中女性職員が三六九人。うち産休育休取得後職場復帰し両立に奮闘している職員が二一人。今、産休育休中で奮闘している女性職員は一〇人にも上る。パートで子育て中の職員まで含めると職場での多数派といえるほどに多い。

もともと女性の割合が多い職場ではあるが、女性にとって働きやすい職場であったかと言われればやはり多くの困難が存在していた。子育てを機会に不本意ながら職場を去った人も多く見てきた。「介護人材難」を歎く前にまだまだする事が私達には在るのではないだろうか。この他、職場の仲間には高齢の人、障害や持病を持った人、家庭での介護を抱えている人など様々な人がいる。京都老人福祉協会も今それを正面から見つめようとするスタート地点に立っている。ずっと働き続けたい職場、ずっと働き続けられる職場をつくる事で、より深くやさしいサービスが提供できると確信しているのだから。



ハートで
ぬくもりと安心を
お届けします
京都老人福祉協会

「だいたいよいぶが心配しないで」

東高瀬川センター
田中悠美

いつでも元気とはかきうらない
体調が優れなくてお食事が進まない利用者の方に、私はよく、「頑張っても少しでも食べてみましょう」「食べないと、元氣も出ませんよ」と言ってしまう。

ある日、他の職員がこんな風に声をかけていました。
職員 「あまり食べてはりませんね、食欲がでないですか？」
利用者 「欲しくないねん、なんでこんなにしんどいんやろ……」
職員 「だいたいよいぶが、心配しないで。誰でもいい時、そうでない時ありますよ」
利用者 「そうやるか」
職員 「だいたいよいぶが、しんどかったらいつでも言ってくださいね」

しばらく話をし、喉に通りやすいものを食べてから、その利用者の方は休まりました。



翌日、利用者の方はお元氣になられ、晴れやかなお顔をされていました。そして、声をかけていた職員がそばを通った時に、「昨日は、心配かけてえらいすまなんだなあ。おおきにー」

力の充電

だれもが、いずれ直面する「老化」。歳をとっていく中で、今までのように自分の身体がいう事をきかなくなったり、物忘れがひどくなったり、老化を痛切に感じているお年寄り。老いる事に対して少なからず焦りや苛立ち、不安を感じ、身体的にだけでなく、精神的にも疲れてしまう。そんな時、「頑張れ」「しっかり」とただ励ますだけではないのだと、このやり取りで改めて気付かされました。

不安な思いを一緒に感じて、しんどいときは休んで、良い意味で「脱力」し、リラクセスしてもらう事で、力を充電してもらう事ができるのかなあと思いました。
お年寄りだけに限らず、私たち介護する側も、入り過ぎた肩の力を抜く事で、いろんなものが見えてくる事もあるのではないのでしょうか。

「脱力」から、また新たな力に繋がる可能性を感じる、今日この頃です。

「言葉の力」と「笑顔の力」のぶつぶつ交換

京都老人ホーム(特養)
介護職員

「ちょっと助けてえな」
「ちょっとええか？」
「ちょっとこつこつち来てえな」

利用者さんのあいさつに続く言葉です。

タンスの上段の衣類の入れ替えだったり、タンスの下の引き出しが開きにくかったり、テレビのリモコン探したり、トイレの介助であったり……。一人一人の要求は様々ですが、どれもが助けを求めておられます。

部屋に入り、タンスを開いたとたん「ドドッ」と衣類が流れ落ちてくる事も……。タンスの引き出しに物を入れ過ぎて開かず、引き出しの隙間から中身がヒョッコリ顔を出していたり……。何かを探したと一目で分かる？ ベッド上にバジャマ・布団が散乱。すべての格闘を物語っています……。

そんな時も、同じような言葉が出て来ます。
「やってみたけど、力が入らなくて出来なかった」
力仕事？ を手伝うと
「あんたは力があるわ」
嬉しいようで、女としてはちょっと悲しいような……。介護の仕事



している、たくましい体つきになります。(はい、なりました。)
衣装ケースを抱えて移動することもあります。その姿をみて
「ありや、そーとーの力持ちやで」と利用者さん同士のヒソヒソ声……。その後、
「あんだけ力があつたら、いざとなつた時頼りになるで」
の声を耳にして、何だか嬉しい気持ちになりました。

身体はとってもキツイのですが、胸の奥がポツとした感じに……。体力勝負、と気合いを入れて働くこともありすが、利用者さんの言葉が力になる事もあります。力仕事の合間に力をもらっています。

「ありがとう」

「若い力」

きつちんさくら
藪内知華

新人5人(新入職員5名)

今年度、きつちん「さくら」には五人が新しく入職しました。本館に三名、西館に二名とそれぞれの厨房で頑張っています。

不安と楽しさ

西館のMさんは、最初は時間との勝負の事に、ついていくのに精一杯で、自分の思うように仕事ができずに悔しい思いをしているように思いました。自分のミスで周りに迷惑をかけてしまうのでは、料理を失敗せずにちゃんと作れるかなどいくつもの不安を抱えているように思いました。先輩に厳しく注意されることも多かったのですが、それ以上に応援してくれていると感じ、少しずつ仕事もこなせるようになり、今は新しい仕事も任せられ仕事の楽しさを感じられるようになったのではないかと思います。

初めての誕生日会

最近では誕生日会の担当になりました。デコレーションケーキ・コーヒーゼリー・フルーツポンチなどのデザートを提供しました。また、利用者さん一人ひとりに手作りの誕生日カードをプレゼントし、喜んで頂きました。本人に担当した時の気持ちを聞いてみました。
「初めての経験で上手くいくだろうか、喜んでもらえるのだろうか、とすごく緊張しました。」

食べていただく工夫

工夫した点は、デコレーションケーキのスポンジをシフォンケーキにした事です。そうすることで普通のケーキよりもスポンジが柔らかくなり、特養の利用者さんにも食べやすくなるかもしれないと考えました。そうしたこと、いつも牛乳で軟らかくして食べていらつしゃる方も、そのまま食べていただきました。

課題

これから取り組んで行きたいことは、利用者さんの嗜好に合わせたものを作っていくことです。今回はケーキを食べたいというご希望のみ応えて作りましたが、今後は利用者さんの好き嫌いや利用者さんがどのような方なのか等を事前に伺い、食事やデザートに生かしていきたいです。

やりがい

初めての誕生日会で緊張した様子でしたが、利用者さん達が自ら進んで食べてくださる姿を見て、ホッとこぼれた笑顔は大変印象的でした。これからの壁に当たってしまふことがあるとは思いますが、今回やり遂げて得たことを忘れずに、これからも利用者さんに喜んで頂けることを第一に考えていってほしいと思います。

「老人力」

京都老人ホーム(養護)介護職員

新人の頃「お年寄りにエネルギーをおすそ分けして若い娘がおばさん化する」という話を聞いた事があります。その当時は聞き流していたのですが……。

Aさん(八七歳女性) 緊急入院しICU(集中治療室)で闘病されましたが、意識レベルも低下し、もうここ(施設)には帰って来られないのではと思われましたが退院されたのです。すつきりとスリムになり、もともと達者だったお口にもより一層磨きがかかっています。

Bさん(九五歳男性) 最近歯の痛み



を訴えて診察を受け、上前歯に虫歯があることがわかりました。口の中を見せてもらいましたが治療された歯はなく、欠歯も見られませんでした。もしかしたら生まれて初めて歯科治療を受ける事になるかもしれません。ちなみに私はBさんが歯磨きをしているのを見ても見た事はありません。

Cさん(二〇〇歳女性) 掃除・洗濯・買い物・針仕事等をすべて自分でされています。昨年、背骨を圧迫骨折されました。こういう場合の排泄は、おむつやベッドサイドに置かれたポータブルトイレを使用されるのですが、彼女は痛みをこらえながらトイレまで歩いて行かれています。

この三人の方々の「力」はどこからきたのでしょうか。単に運が良いとか、強いものをもって生まれてきたという事では片付けられない生命(いのち)の不思議、生命の力(エネルギー)を感じてしまうのです。私もこの仕事を始めて一〇年がたちました。エネルギーのおすそ分けをしたつもりはないのですが、「おばさん」への道を一步一步進んでいる事に間違いなようです。

「チーム力」 Power

春日丘センター居宅介護支援事業所 柚木

二年目を迎えた おぐりすセンターほっこり

平成十九年四月に訪問介護事業・居宅介護支援事業を行なう「おぐりすセンターほっこり」がオープンし、一年余りが経ちました。当初は不安もありましたが、ご利用者さんをはじめとして、皆さんの支えにより無事二年目を迎えることができました。

介護が必要な状態になっても「住み慣れた地域で、家で暮らしたい」「家族と一緒に暮らしたい」といったご利用者さんの思いに添う



お手伝いができれば……と、現在センターでは約五〇名のご利用者さんが、約一八〇名のご利用者さんのお宅を訪問させていただいています。

複数のヘルパーが 連携して…

訪問介護は基本的には一人で援助を行なっていますが、週に複数回利用されている方も多く、実際はお一人に対して複数のヘルパーがチームで支援しています。援助に満足していただくためにはご利用者さんの心身の状態を理解し、適切なサービスを提供することが不可欠です。そのためには支えるチームでしっかりと情報を共有し合い、個々のヘルパーがそれを把握し、かつ必要とされる要望・内容に応えられるだけの介護技術を備えていなければなりません。

「連携」が(しっかりと)でき てこそ生きる「チーム力」

この一年間、おぐりすセンターでは「連携」を大切にしてきました。サービスを提供する際には、それまでの記録と情報、状況に基

「チーム力2」 ヘルパーを 良かったと感じる時は?

「ヘルパーを
良かったと感じる時は?」と訊いてみました。

やはりご利用者さんやご家族の方に「ありがとう」「本当に助かっています」等と言って頂いた時、「この職業に就いて良かったなあ」と感じます。また、援助させて頂いて、残存機能・能力を活かすことができた時とても



うれしく思い、これからはヘルパーとして何か少しでも力になれたらと思います。

調理をする際、食材を、最後の最後まで無駄なく大事にされるご利用者さんから、食べ物や物に対しての大切さを学びました。また、少しでもご利用者さんの希望に沿えるよう努力をしてく中で、「また来てね」「ありが



づいて適切に、サービスを提供し、提供後には必ず記録を取り、重要な情報についてはすぐにセンターに報告し、他のヘルパーやケアマネジャーにも伝えられます。また、日々三〜四名でも揃えばできる限りミーティングを持ち、毎月のヘルパー会議では「情報交換」や「介護技術の向上を目的とした学習」を行なっています。「チーム力」があつてこそ、ヘルパー一人ひとりの質が高まり、より良いサービスの提供に繋がるものと思っています。



一番身近なサービス だからこそ

平成十八年の制度改正を受けて、夜間対応型訪問介護がスタートし、「いつでも利用できる」ようになる一方で、同居家族のいるご利用者さんの生活援助が見直され、「誰もが利用できる」といった状況ではなくなりました。また、違法な介護報酬請求が社会問題となり、給付の大幅な抑制が始まるなど訪問介護事業は大変厳しい現状に直面しています。ご利用者さんの生活の場である「家」を訪問して介護を提供する「訪問介護」は一番身近なサービスであると思います。だからこそ厳しい状況下においてもご利用者さんの生活の支えになれるよう、今後も「力」を発揮していきたいと思っています。



とう」と声をかけて下さった時、とても嬉しく思い、一層頑張ろうという気になります。

● 毎回訪問時は、玄関先から不安で胸がバクバク……。短い時間の中で良い関係を保ちながらサービスを提供していても、センターに戻る道中、「あれで良かったのか」と不安が残ります。そんなときに先輩に相談し、良いアドバイスを共感をいただきパワーをもらっています。

● この仕事に就いたのは、「人の力になりたい」という思いからでした。七年近く勤めさせていただき、昔も今もご利用者さんの笑顔を見た時や、「(退院して)家に帰ってきて良かった」と言



って下さることに、この仕事をしていて良かったと強く思います。

● 毎日、緊張感を持って仕事をしていますが、最初の頃に比べるとご利用者さんとの会話にもゆとりが持てるようになってきたと感じます。そして、私の訪問を待ってくださるようになり、少しでもお役に立てるようになったことに対して日々感謝感激しています。



二〇年度事業方針

1. 小規模特養の新設

大型の特養の建設でなく、身近な所で住み続けるために18床(2ユニット)の小規模特養を醍醐方面に建設し、施設における個別ケアを進めていきます。併せて、より充実したサービスの提供を目指します。

2. 小規模多機能型居宅介護事業所の新設

平成18年6月より事業開始した「板橋の町家ほっこり」に続いて、平成19年4月に「醍醐の家ほっこり」、6月に「稲荷の家ほっこり」を新設しました。「住み慣れた地域で、高齢者の生活を支える拠点」を目指します。

3. 夜間巡回訪問介護事業の開始

「要介護者になっても…夜何か有っても…安心して住み続けることができる生活」を支援するために、24時間対応できるコールセンターを平成19年12月に開始しました。今年度は事業の更なる充実を目指します。

4. 子育て支援事業の開始

地域で暮らす人の中には、子育ての支援を必要としている人もいます。そのような人たちと一緒に子育てに取り組みます。世代を超えて支援を行います。

既存サービスにおいては…

～地域の中で地域社会全体をみていける拠点作りを目指して～

●地域包括支援センター

深草・北部地域包括支援センター、東高瀬川地域包括支援センターは、高齢者だけに限らず、地域全体を視野にいたしたセンターとして、地域のより良い福祉力の創造を目指します。

●介護予防推進センター

介護予防の教室、転倒予防、口腔ケア、認知症予防教室などを地域に出張して行っており、今年度も更なる充実を目指します。

●障害者地域生活支援センター

高齢者だけでなく、子供から大人まで「障害を持っていても住み慣れた地域社会で暮らしたい」という願いの実現の為に、包括的に相談を行い、多様なニーズへの対応を目指します。

●ユニットケア・個別ケア

ユニットケアの特徴を生かし、利用者のより深いニーズを把握し介護につなげていきます。食事に関しては、利用者に合わ

せた食事時間や内容などに近づけるために食事を各階で提供できるように体制を作っていきます。生活環境に関しては、設備に工夫をこらし、住み慣れた家庭的な雰囲気の生活空間作りを目指します。

●予防通所介護と通所介護の分離モデル

予防介護を効果的に行なうため、春日丘センターにおいては予防対象者のみの通所介護を実施しています。また、京都老人ホームデイサービスにおいては予防通所専用日を設けています。

●通所・訪問・ケアマネージメント融合モデル

小規模多機能型居宅介護で成果を上げている、なじみの職員によるなじみの関係でのサービス提供を行なうため、3つのサービスを同じチームで提供できるモデル(デイサービスの職員が訪問介護も行なう等)を、京都老人ホーム・深草センターの通所・訪問部門で実施しています。

職員体制においては…

～人材育成と教育研修体制、人材確保政策の確立～

- ・対人援助において、サービスの質を決定するのは職員と職員集団のスキルであり、それを支えるのは事業所であるということ人事の基本方針とします。
- ・新たな福祉ニーズ(地域福祉・個別ケア等)に対応できる職員を育成するため、法人研修体制を確立し、組織的な人材育成を行ないます。
- ・職員が、自身の将来像を明確に描け、仕事にやりがいが見いだせるように、法人としてのキャリアパスを明示出来るようにします。
- ・社会から求められる介護量と質を担保するための十分な職員数を確保することを組織的に取り組んでいきます。
- ・職員の資格取得のために、さまざまな援助を行っていきます。

事業活動収支計算書 自平成19年4月1日 至平成20年3月31日(単位:円)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費	1,615,560,011	介護保険収入	1,797,339,741
直接介護費	292,411,490	措置費収入	142,586,847
一般管理費	189,943,192	診療収入	20,798,365
利用者負担減免額	3,665,288	ヘルパー講座収入	2,520,000
減価償却費	77,889,776	私的契約利用料収入	589,600
徴収不能額	0	経常経費補助金収入	7,644,040
引当金繰入	19,795,217	国庫補助金等特別独立金取崩額	40,308,048
事務費支出(養護)	69,485,707	寄付金収入(養護)	1,220,000
事業費支出(養護)	47,183,851	雑収入(養護)	8,866,311
		自立支援費収入	97,372,411
		その他事業収入	218,470,058
事業活動支出計	2,315,934,532	事業活動収入計	2,337,715,421
借入金利息	15,695,641	借入金利息補助金収入	4,551,400
雑損失	5,014,011	受取利息配当金収入	749,688
経理区分繰入金支出	479,529	寄附金収入	10,812,425
		雑収入	7,736,048
		雑収入(事外)	1,526,600
		経理区分繰入金収入	479,529
事業活動外支出計	21,189,181	事業活動外収入計	25,855,690
国庫補助金等特別独立金	46,092,000	施設整備等補助金収入	53,355,000
固定資産除売却損	4,287,813	固定資産売却額	0
他会計区分繰入金支出	331,741,970	固定資産売却益	0
その他の特別損失	10,917,245	他会計区分繰入金収入	331,741,970
		その他の特別収入	10,692,463
特別支出計	393,039,028	特別収入計	395,789,433
その他の積立金繰入額	0	(当期活動収支差額)	29,197,803
次期繰越活動収支差額	577,168,588	前期繰越活動収支差額	547,970,785
		その他の積立金取崩額	0
支出の部合計	3,307,331,329	収入の部合計	3,307,331,329

平成19年度決算報告書 社会福祉法人 京都老人福祉協会

貸借対照表 平成20年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	575,700,551	流動負債	60,646,127
固定資産	2,153,049,417	固定負債	646,837,659
基本財産	1,626,790,133	負債の部合計	707,483,786
その他の固定資産	526,259,284	純資産の部	
		基本金	218,250,000
		国庫補助金等特別独立金	861,274,385
		その他の積立金	364,573,209
		次期繰越活動収支差額	577,168,588
		(内当期活動収支差額)	29,197,803
		純資産の部合計	2,021,266,182
資産の部合計	2,728,749,968	負債及び純資産の部合計	2,728,749,968

Power

「桶の下の力持ち」

京都老人ホーム居宅介護支援事業所 堀田

Power

訪問入浴って何?
介護保険のサービスの一つです。どのようなサービスか、まさに読んで字の通り、お風呂がお家を訪問するのです。個人用の移動お風呂屋さんともいいましょうか。デイサービスなど施設での入浴も困難な方を対象に、看護師一名、介護職員二名の三人でチームを組んで、組み立て式のお風呂と一緒に訪問入浴車で、ご自宅を訪問します。

入浴の効果

身体的効果…顔などの色つやが良くなり、より良い健康状態が保たれます。また、皮膚の痒みを減らしたり、床ずれの改善、解消が期待できます。精神的効果…気分がほぐれ、家族の方と会話をするなど、心にゆとりが生まれます。また、さっぱりして睡眠もよくとれるようになります。その他の効果…ご家族(介護者)の負担が軽減します。

入浴サービスの車の中って、どうなっているの?

これが入浴の桶、二つのパーツに分かれていて、家の中でつなげてお



湯をはります。

これがホース、入浴サービスの車の給湯器で沸かしたお湯を浴槽に入れます。

これが入浴サービスの車、特徴はなんといっても煙突がついているところです。

こまごまとした、入浴サービスの備品が、凝縮して詰め込まれています。

入り口は玄関だけでは、ありません。

今は、二分割できる浴槽ですが、

以前は単体で、寝て入る浴槽を曲げる事もできず横にしたり、ななめにしたり、浴槽を居室にセットするまで一苦労。玄関がだめなら窓から、また階段を使っても上げられない時は引越越し屋さんのようにロープで風呂桶をつつて窓やベランダから入れたりもしていたそうです。

特別養護で介護職員として働く、松江CW

「介護保険前、おじいちゃんを入浴させてもらうのに、サービスを利用していません。もう自分一人では無理で、初めて来てもらった時、嬉しくて、嬉しくてお湯が足りなくなれば、風呂場や、流しの湯沸かし器で沸かしたお湯を、職員さんと一緒にバケツで運んで、足していました。何も無い中で、助けにきてもらえて、これほど嬉しい事はなかった、と忘れられません。今は介護保険があつて、だれでも利用できるようになり、ですが、当時は本当に画期的で、そんな事がしてもらえませんか?と感動しました」

重たいだけでは、すまされない

普通の一軒家のお宅に訪問に行く時はそうでもないですが、団地で車を止める所から離れていて、なおかつエレベーターがないお宅に訪問する時もあります。経験豊かで、腕に

新旧の入浴サービスの職員の違い

4Fまでの回り階段でつかれはてました。いつも汗だくで必ず着替えを持参していました。ようやく運んでセットしたのに、配管手順を間違えて水浸しになってしまいました。

お湯が温まらなかつたり、冬は水が凍結してしまつたりとトラブルや苦労話はつきません。

入浴サービスの力の源

湯船につかられたご利用者さんのあの気持ちよさそうなお顔を拝見すれば、ついさつき重たい風呂桶を担いで来たことなどすっかり忘れてしまいます。ご利用者さんの何とも言えないあの幸せそうな表情に、改めて訪問入浴というサービスの重要性を感じながら、また重たい風呂桶を担いで帰路につくのです。

風呂桶の「重い」を、清々しい「思い」にかえて、桶の下の力持ちは今日も頑張ります。

「頑張れる力」

京都老人ホーム(特養)看護師 池乗

Power

福祉施設で働くようになり、看護師として、病院との違いに驚いたり不安になったり、自信のない日がありました。病院でもバイタル、モニター等の数値に目をとられ、患者さんの病状に一喜一憂しながらも機械的な対応で笑顔を忘れてしまうような日々があったように思います。

エネルギーはどこから？

今回のテーマが「力」ということで、このような不安定な心をふりはらい「よーし、頑張るぞ!」とエネルギーをもらった瞬間を同僚達から教えてもらいました。

一番大きなエネルギーをもらっているのは、利用者さんの明るく楽しんでいる笑顔と「ありがとう」という言葉です。同じように家族の方からの心温まる言葉や感謝の言葉からも、期待にそえるよう頑張ろうという、新たなパワーが出てくるように思います。

施設と病院どちらも利用者さんとは一生の中で限られた期間の関わりだと思います。

病院は多くの場合は退院(在宅復帰)となりますが、施設の場合は人生の最後に関わるという点で違いが出てくると思います。

ちょっとした心配事について相談され、頼られていると感じたり、逆に人生の先輩としてアドバイスをもらったり、いくつになっても「命ある限り、日々努力」とまだまだ頑張っておられる利用者さんとのふれあいの中で、また一緒に働く仲間との関わりの中から、大きなパワーをもらっています。

ターミナルへの関わり

最近、在宅でのターミナルが増加傾向で、病気ではなく、徐々に老化をたどっている高齢者が増えてきています。在宅サービス強化の結果だと思いますが、今後どのような対応をすればいいのでしょうか？

どう接するのか？ということも、双方に大して変わりはなく、医療の場では元気になって退院するという喜びが今後の励みになると思います。

また、生活の場では日頃の様子を知り、どのようにその人らしい人生の最後を迎えることができるのか、という点でほんの少し医療を交えながら穏やかな最期を迎えられるような関わりを持っていきたいと思っています。

ご本人、ご家族ともに、ぎりぎりまで施設での生活を望んでくださり、亡くなられたご家族の方から、なじみの利用者さん、職員達のいつも通りの話し声、大好きなコーヒーをすごく楽しみにしていた、とうかがいました。これからもそのような思いで利用していただけるよう頑張りたいと思います。

最後に

何事に対しても「頑張れる力」は、人と人の関わりにより、生まれてくるものだと思います。それは言葉であり、態度であり、受け取る側の気持ちにも関係すると思います。今後は「頑張れる力」をもらうだけではなく相手の方に対して、そのような力をもってもらえるような存在になりたいと思います。

社会福祉法人 京都老人福祉協会グループ



お知らせ

いらなくなった綿の古衣類、ポロ布お譲り頂けませんか？
皆様からご提供いただいている綿布大変助かっています。引き続き要らなくなった綿布がありましたら、ご提供よろしく願いいたします。

☎ 075-641-6622

クイズの答え

- ① コスモス
- ② フヨウ
- ③ ヒヤクニチソウ
- ④ ヒヤクニチソウ
- ⑤ ベンケイソウ
- ⑥ カンナ
- ⑦ マリーゴールド
- ⑧ ニチニチソウ
- ⑨ イヌサフラン

スタッフが調べましたので
間違い等ありましたらご指摘
なごお寄せ下さいませ!!